

シニアのくら誌

発行：社会福祉法人 堺市社会福祉協議会 南区事務所

シニアの益
ステイホーム版

令和2年10月発行

新型コロナウイルスの影響で外出を自粛し、
おうちで過ごす時間が増えてきているのではないですか。
この機会を活用して、趣味を充実させたり、
新しいことに挑戦したりしてみませんか？
新たなつながりを作るきっかけになること間違いなしです！

今号は、通常とは異なる“ステイホーム版”とし、
趣味や特技をいかして地域で活躍されている3人の方に
活動のきっかけや楽しみ方などのお話を伺いました。
みなさんの素敵な「おうち時間」のヒントになれば幸いです。

趣味を
深めて、
広がる
つながり

経験をいかして、 いつまでも若々しく！

活動者
インタビュー

—— 昔あそびの会 竹とんぼ 荒井静雄さん



仕掛けから色や形まで
アイデアいっぱいの手作り玩具

毎 月第3土曜日、赤坂台地域会館で世代間交流を目的
とした『昔あそびの会 竹とんぼ』が開催されています。
荒井さんは立ち上げ当初から『竹とんぼ』で活動を続けています。
機械科の教員をしていたこともあり、手先が器用だった荒井さん。
当時の民生委員から誘いを受け、『竹とんぼ』に参加しました。

竹 とんぼはもちろん、手作りの水鉄砲やどんぐりゴマなど、廃材を利用して子どもたちが“安全に楽しく”遊べるよう、荒井さんのアイデアから生まれたものがたくさんあります！

荒 井さん自身、活動にいかせるものはないかと講習会等に積極的に参加をされました。

子 どもたちが楽しめる活動にするために、努力を惜しまなかったからこそ、その熱意が伝わり、卒業した子たちがスタッフとしてお手伝いに来てくれることも！そんな子どもの成長を見られることも、活動の楽しみの一つだそう。

88 歳になった今でも、活動を続けておられる荒井さん。「子どもたちと同じように活動を楽しみ、気持ちを若く持ち続けることが、元気である秘訣です」と話す表情はとても晴れやかでした。



堺市社会福祉協議会 南区事務所では
生活や活動に役立つ情報の収集と発信を行っています。
地域で参加できる場所等、お気軽にお尋ねください。

堺市社協
南区事務所 /
日常生活圏域
コーディネーター



窪田 真一



植谷 正紀



中光 萌那



泉谷 咲恵



好きなことを続けるだけ!

—— 宮山台いきいきサロン(手芸) 田山弘子さん

活動者
インタビュー

季 節に合った手芸作品が好評な『宮山台いきいきサロン』。参加者のみなさんは裁縫セットを持参し、時間を忘れて、作品づくりに夢中になっています。作品選びから材料の準備まで、『宮山台いきいきサロン』を支えているボランティアの田山さんにお話を伺いました。

も ともと手芸が得意で、友人やご近所の方に手作り作品をプレゼントしていた田山さん。その噂を聞き、当時の福祉委員長から『いきいきサロン』でお裁縫を教えてほしいとお誘いがあったのが約15年前。モノづくりが好きな人が多い宮山台の地域ニーズとも合い、今や活動に欠かせない存在となっています。

こ れなら作れるんじゃないか」といろいろなところからアイデアやヒントを得ている田山さん。「作ることが好きだから、考えるのも楽しい」「好きなことをして、喜んでもらえるのが嬉しい」と楽しみながら活動されている様子がうかがえました。

と にかくモノづくりが好きで、好きなことをしているだけです」と、話す田山さん。活動に特別な知識や技術は必要なく、活動が好き!という気持ちが何より必要なのかもしれません。



「編み物大好き!」
そんな気持ちが
伝わってくる作品

大切なのは趣味をもつこと! —— 三原台喫茶こぶし 正木邦雄さん

活動者
インタビュー

三 原台で大人気の活動『喫茶こぶし』。ボリュームたっぷりのモーニングを食べながらおしゃべりに花が咲き、地域のふれあいの場として、住民の方も楽しみにされています。会場の準備から調理、配膳と活動を運営しているのはボランティアグループ『こぶし』のみなさん。正木さんは『こぶし』が立ち上がった16年前から活動を支えています。



い ろいろなことに興味を持ち、今でもたくさんの活動をされている正木さん。料理も誰かに教わったのではなく、訪れたお店のメニューをまねしたり、自分なりに工夫をしたりして経験を積んでこられました。

定 年退職後、ご近所の方に誘われ地域の活動に参加し、当時の自治会長から「男性も気軽に参加できるふれあいの場を作りたい」と相談を受け、『喫茶こぶし』がスタート!



地域の方々のリクエストに答えるため、様々な工夫をし、活動を続けてこられました。「『こぶし』ではいい仲間巡り合えました。仲間と協力し、地域の方に喜んでもらえる活動になりました。今では子どもたちも楽しみにしてくれています」と、話す表情はとても生き生きとしていました。

活 動を続ける秘訣は、楽しむこと。「『こぶし』の活動は半分自分の趣味で半分地域(人)のため。好きなことだから、負担なく続けられる」と。

『こぶし』のほかにもグラウンドゴルフや陶芸と様々な活動をされている正木さん。趣味を深めることで、自然とつながりが広がっているようです。

中華鍋を振るう姿も様になる
男性の活躍が地域を盛り上げます